

日本ロシア文学会・日本スラヴ学研究会・合同公開シンポジウム（ハイフレックス形式）

日本ロシア文学会大会プレシンポジウム

ロシア・東欧の抵抗精神

——抑圧・弾圧の中での言葉と文化：

ロシア、ベラルーシ、ウクライナ、ポーランド、チェコ——

2021年ノーベル平和賞を受賞したことで世界的に知られるようになったロシアの独立系新聞『ノーヴァヤ・ガゼータ』の編集長ムラトフを始めとして、ロシアには権力からの抑圧・弾圧に屈することなく自由な言葉を発し、文化活動を展開する強固な伝統がある。ソ連時代に弾圧され国外追放になったノーベル賞作家ソルジェニーツィンしかり、反戦思想などのため政府に睨まれロシア正教会から破門されたトルストイしかり、自由思想の持ち主で流刑同然になったプーシキンしかり。一方、大国から軍事侵攻さえ受け、正常な生活と言論・文化活動を破壊された東欧諸国にも、強固な抵抗精神、抑圧と弾圧の中での自由な言論と文化活動の伝統がある。このようなロシア・東欧の抵抗精神に改めて光を当てて広く紹介することは、精神的な糧と力を提供する機会となろう。

司会

小椋彩（北海道大学助教）

はじめに（趣旨説明） 石川達夫（専修大学教授・神戸大学名誉教授）

「国歌は何を示唆するか？」

ロシア 前田和泉（東京外国語大学教授）

「反体制と「文学」

——ウリツカヤ『緑の天幕』を手がかりに——」

ベラルーシ 奈倉有里（早稲田大学非常勤講師・翻訳家・エッセイスト）

「ベラルーシ文学の抵抗と弾圧」

ウクライナ 中澤英彦（東京外国語大学名誉教授）

「ヒト、人、ひと。ウクライナで人となることは」

ポーランド 西成彦（立命館大学特任教授）

「ポーランド人であること、になること、にさせられること

——ニーチェからゴンブローヴィチへ——」

チェコ 石川達夫（専修大学教授・神戸大学名誉教授）

「チェコ抵抗精神の系譜——ヴァーツラフとヤン——」

コメント・リアクション

貝澤哉（早稲田大学教授）、阿部賢一（東京大学准教授）

質疑応答・全体討論

日時 2022年10月21日（金） 18:00～21:00

場所 専修大学神田キャンパス 10号館 16階相馬記念ホール

日本ロシア文学会・日本スラヴ学研究会・合同公開シンポジウム（ハイフレックス形式）
日本ロシア文学会大会プレシンポジウム

ロシア・東欧の抵抗精神

——抑圧・弾圧の中での言葉と文化：

ロシア、ベラルーシ、ウクライナ、ポーランド、チェコ——

オンラインで視聴を希望する場合

事前登録は不要です。

YouTube の「日本ロシア文学会広報委員会」のチャンネル

(https://www.youtube.com/watch?v=Dvm8b0n_-wQ) (QR コードでも可能) で同時配信する予定です。後日、同じチャンネルのアーカイブで視聴することも可能です。



YouTube オンライン配信用チャンネルの QR コード

会場での対面参加を希望する場合

参加費無料で、どなたでも参加できますが、事前登録が必要です。先着順で受け付け、定員に達し次第、締め切りとなります。

登録方法

- ・ Google Form (<https://forms.gle/La7tQKR7jCv12pa29>)
- ・ QR コード



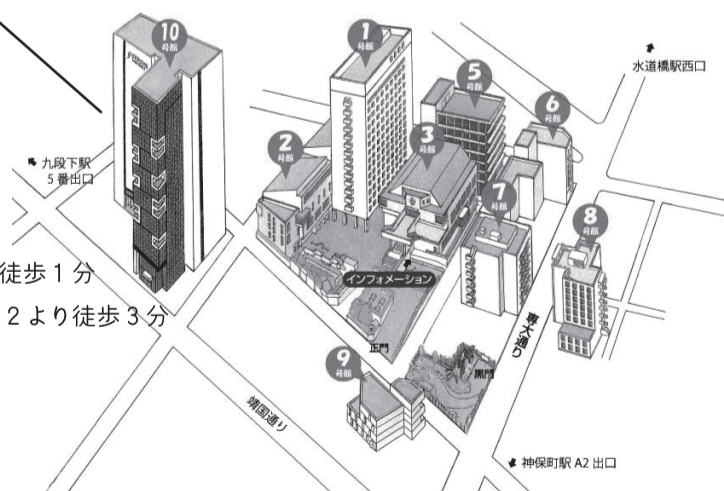
対面参加事前申込用の QR コード

お問い合わせ先：exe_conf@yaar.jpn.org (日本ロシア文学会大会実行委員会)

10号館 16階
相馬記念ホール

電車からのアクセス

- ・ 九段下駅（地下鉄／東西線、都営新宿線、半蔵門線）出口 5 より徒歩 1 分
- ・ 神保町駅（地下鉄／都営三田線、都営新宿線、半蔵門線）出口 A2 より徒歩 3 分
- ・ 水道橋駅（JR）西口より徒歩 7 分



2022/10/21（金）18:00～21:00

於：専修大学神田キャンパス 10号館 16階相馬記念ホール

協賛：専修大学人文科学研究所